

世田谷区立多聞小学校改築基本設計（案）について

（付議の要旨）

区立多聞小学校改築工事に係る基本設計（案）がまとまったので、その概要を報告する。

1 主旨

区立多聞小学校改築基本設計（案）がまとまったので報告する。

2 基本設計概要

（1）基本方針

- ① 学習や教育の変化に対応できる学校
- ② 豊かな個性をはぐくみ、仲間を大切にする心をはぐくむ学校
- ③ 環境負荷低減を図り、地球を大切にする心をはぐくむ学校
- ④ 周辺環境との調和を図り、地域のつながりを育てる学校
- ⑤ 安全・安心の学校

（2）建築概要

- | | |
|-------------|--|
| ① 所在地 | 世田谷区三宿 2 丁目 2 6 番 1 1 号 |
| ② 敷地面積 | 約 8,501 m ² |
| ③ 構造・階数 | 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、地上 4 階建 |
| ④ 建築面積／建ぺい率 | 約 3,445 m ² ／40.52% |
| ⑤ 延床面積／容積率 | 約 8,182 m ² ／96.25% |
| ⑥ 最高の高さ | 平均地盤面＋16.5m |
| ⑦ 主要室の構成 | 普通教室（19）、ワークスペース（3）、体育館、特別支援教室（2）、特別教室（理科室、家庭科室、音楽室（2）、図工室、多目的室、図書室、パソコン室）、多目的スペース、給食諸室、管理諸室、新 BOP 室、エレベーター、防災倉庫
※平成 25 年度現在 13 クラス、最大 22 クラスまで対応可能 |
| ⑧ 案内図 | 別紙のとおり |
| ⑨ 配置・平面図 | 別紙のとおり |

3 施設の特徴

（1）配置計画等

- ① 校舎は、北側、校庭は南側に配置し、校舎の自然採光・自然通風と校庭の良好な日照を確保できる計画とする。
- ② 新校舎は、コンパクトな形状とすることで、可能な限り校庭を広く、まとまりの良い形状を確保できる計画とする。

- ③ 日影などの法規に適用させるとともに、北側に対して空地を設け、周辺への圧迫感や日影等の影響を抑え、住環境や安全性の向上に寄与した計画とする。
- ④ 将来の道路拡幅等を勘案し、西側道路に面した4mの範囲内への構築物の配置を避けた計画とする。

(2) 平面・動線計画

- ① 普通教室は、2～3階にまとめて配置し、自然採光と自然通風を確保した良好な学習環境とするため、可能な限り南面に配置する。
- ② 特別教室は、普通教室と同様、2階～3階にまとめて配置し、児童の教室の移動に係る距離や時間に配慮する。家庭科室は、餅つき大会等の校庭での行事や災害時の炊き出し等の活用を考慮し、1階の校庭側の配置とする。
- ③ 職員室等の管理ゾーンは、昇降口及び校庭を見渡すことの出来る1階にまとめて配置する。児童や保護者、その他の来校者が容易に把握でき、管理しやすい計画とする。
- ④ 特別支援教室ゾーンは、個別の出入りがしやすい1階に配置し、かつ普通教室と同様に良好な室内環境とするため、南東側に配置する。
- ⑤ 新BOP室は、正門に近く体育館や校庭とつながりの良い配置とする。
- ⑥ 体育館は、2階に配置する。普通教室からの移動距離が短く、授業や休み時間に利用しやすい計画とする。
- ⑦ 地域開放ゾーンは、1階の昇降口正面に配置し、利用しやすい動線計画とする。また、体育館のサブアリーナとして機能できる計画とする。

(3) 外構計画

- ① 周辺からの景観に配慮し、既存樹木は極力残す計画とする。
- ② 南側に遊具・学級園をまとめて配置し、整形で利用しやすいグラウンドを確保する。
- ③ 北側、西側の一部には、歩道状空地を整備し、周辺環境の向上と通学路の安全を確保する。

(4) 防災計画

- ① 地域の防災拠点として防災倉庫や災害用マンホールトイレ、井戸を設置する。また、校舎は、耐震性を高めるための係数を建築基準法で定める基準の1.25倍以上とする。
- ② 全校児童の避難については、避難経路がわかりやすいよう、廊下、階段、昇降口の避難施設を適切に配置する。

(5) 省エネルギー及び環境対策

- ① 庇による日射のコントロール、屋上緑化による熱負荷低減、雨水貯留槽による中水利用等、自然エネルギーを利用した環境配慮対策を講じる。
- ② 教室間の間仕切り壁は、乾式壁とし、撤去、増設可能な非構造部材として将来の用途変更対応が出来るようにする。
- ③ 屋上は、太陽光発電パネル設置や屋上緑化を計画する。

- 4 概算工事費
約 24.7 億円
(特別基礎工事、環境に配慮した特別の仕様を除く、外構・校庭整備工事を含む。)

- 5 工事工程
平成 25 年度 実施設計、仮設校舎建設
平成 26・27 年度 旧校舎解体、新校舎建設
平成 28 年度 外構・校庭整備

- 6 今後のスケジュール
平成 25 年 4 月 23 日 文教常任委員会報告